
血まみれのサンタクロース 完全版

とろろグミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

血まみれのサンタクロース 完全版

【Nコード】

N7004P

【作者名】

とろろグミ

【あらすじ】

聖なる夜に、やってきたいろんな意味で危ないサンタの話

（前書き）

完全版というほどでもないが・・・

クリスマス

『あーあ、今年もきちやったよクリスマス、今年は仕事さぼろうかな』

<そんなこと言っていないでちゃんと働いてくださいよ>

『分かってるよ』

<それじゃあ行きましょう>

『ジングルベル ジングルベル 鈴が鳴る 今日楽しいクリスマス』

<テンション高いですね>

『明日は、年に一回の給料日だからな』

<雪が降ってきましたよ、サンタさん>

『そうだな、でも寒いから帰ろう』

<ダメです！>

『チッ』

<それよりサンタさん、太りましたか？>

『ふ、太ってなんか無いぞ！あつ、1軒目の家じゃ』

- 1 軒目 -

<着いたけどどうやって入るんですか？>

『もちろん、煙突からじゃ』

<最近の家は煙突付いてないですよ>

『そんなこともあるうかと、ガムテープを用意しておいたんじゃ』

<どうやって使うんですか？>

『まあ、見ておけ』

サンタは、窓ガラスに、ガムテープを貼った。

<それで、どうするんですか？>

『こうするんじゃない！』

ドン

サンタは、窓を割った。

『こうすれば、あまり音が出ないんじゃない』

<・・・>

サンタは、割ったところから手を入れ、鍵を開け家の中に入った。

『・・・』

<・・・>

「・・・」

「ど、ドロボー！」

入った部屋の中には、大人が居た。

『トナカイ、そっちの女の口をふさぐのじゃ！！わしはこっちの男を気絶させる』

<分かりました>

サンタは、男を殴りまくった。そして男は、気絶した。

『次は、そっちの女じゃ』

そして女も殴り、気絶させた。

『これぐらい殴れば記憶がとぶじやろっ』

<早くプレゼントをおいて、次の家に行きましょう>

『そうじゃな』

そして、子ども部屋を見つけて、枕元にプレゼントを置き次の家へ

『次の家に行くぜ』

<着きました>

『早っ』

<すぐ隣ですからね>

『さあ入ろう』

<また、さつきと同じ、ガムテープを使って入るんですか？>

『今回は、玄関からじゃ』

<多分鍵がかかってますよ>

『今度はこれを使うんじゃない！』

サントは、針金を取り出した

<もしかして>

『もちろんピッキングじゃ』

<サントさんピッキングできるんですか？>

『わしに不可能など無い！』

サントは、ピッキングをしたが開かない

『あれ？おかしいな』

<ちよつと貸してください>

『お前なんぞにできるのか？』

<まあ、見ててください>

トナカイは、玄関を開けた

『あれ？』

<気付かなかったんですか？最初から鍵が開いてたのに>

『き、気付いてたさ。うん。気付いてた』

<・・・>

『た、ただ、お前を試しただけだ』

<ふーん>

『さ、さあ、入ろう』

家に入ったが子ども部屋が分からない

<子ども部屋はどこでしょうね？>

『片っ端から開けてみればいいんじゃない？』

<子ども部屋じゃなかったらどうするんです？>

『大丈夫だつて』

一つ目の部屋に入った

子ども部屋ではなく、そこに居たのはムキムキのおじいさんだった

「わしの家に無断で入ってくるとはいいい度胸じゃのう?」

「わし、ちよつと用事を思い出しました」

「そう簡単に家から出られると思うか?」

「思います」

「残念じゃったのう」

<じゃあ、僕はこれで>

「おぬしも逃がさんぞ!」

<僕は、この人に無理やり連れて来られただけです>

「トナカイ、わしを裏切る気か?」

<裏切るも何も、あなたとは、赤の他人です>

「トナカイは、鍋にすると美味しいんじゃ」

<僕は食べても不味いです。そつちのじじいの方が美味しいですよ>

「そつちは後で食べる。もちろん別の意味でな」

「どういう意味ですか?」

「まだ夜は長いんじゃゆつくり楽しむか」

「逃げるぞ!」

<はい!>

<何とか逃げ切れましたね>

後ろを見ても追いかけてくる気配が無い

「ハアハア・・・も、もうダメ」

<さあ、気を取り直して次の家に行きましょう>

「もう帰ろ?」

<ダメです>

『何かやな予感がするんだ』

<じゃあ、早くプレゼントを配りましょう>

『その前に、そのコンビニで何か買ってくる』

・コンビニ・

「おい、おっさん」

『おっさん？わしの事か？』

「そう、お前のことだ」

『わしに何か用か？』

「ちよつと金貸してくれ」

『何故じゃ？』

「いいから、金だせ！」

『最近の若者は礼儀がなつておらん』

「説教とか、マジうぜえ」

『わしが、この拳で、礼儀を教えてやろう』

「死ね！！この、老いぼれが！！」

サンタは、不良を殴った。そして、不良は気絶した。

「た、たかし君」

「このジジイ、よくもたかし君を」

不良達は、サンタに殴りかかった

『貴様らにも、この拳で礼儀を教えてやろう』

不良達は、数分で全滅した

<サンタさん、遅かったですね>

『ああ、ちよつとレジが込んでてな』

<じゃあ、次の家に行きますか>

- 3 軒目 -

『ここが3軒目の家か・・・でかいな』

<そうですね>

3軒目は、大豪邸だった。

『ここは、プレゼントいららないんじゃないか?』

<そういう訳には、いきません>

『めんどくさそうじゃの』

ワンッワンッ

『番犬どもじゃ』

<どうします?>

『お前おとりになれ!』

<分かりまし・・・やです!!>

『チッ、仕方ない屋敷まで走るぞ』

<はい!>

『飛び込め!!』

ドンッ

ウーウーウー、緊急事態発生、緊急事態発生、侵入者アリ、侵入者アリ、ウーウーウー

『やばい警報機が』

<大変です!!警備の人たちが着ました!!>

『お前はそっちの10人を、わしはこっちの10人を殺る』

<分かりました>

「ウオオオオオオオオオオオオオオ」

『うるせえ!!』

サントの渾身の一撃

警備兵A〜Eは息絶えた

「今日の晩飯になれ!!」

<だが断る!!>

トナカイの渾身の一撃

警備兵F」は息絶えた

『さっさとプレゼント置いて帰るぞ!』

<待ってください!>

『どうした?』

<向こうから何か来ます!>

『どんなやつだ?』

<あ、あれは・・・>

『どうした?』

<早く逃げましょう>

『プレゼントはどうするんじゃ?』

<そんなものより逃げるのが優先です>

『分かった』

「やつと見つけた」

『お、お前は』

なんと、2軒目の家にいたムキムキのジジイだった

「今度は逃がしませんよ」

『どんな手を使ってでも逃げてみせる』

サントは逃げようとした

「遅い!!」

しかし、ムキムキのジジイが行く手を阻む

『クソッ』

「諦めてわしの物になりなさい」

『断る!!』

「ならば力づくで」

『おい、トナカイ助ける』

<無理です>

『なぜだ?』

「なぜなら、わしが捕まえて動けないようにヒモで縛っておいたからな」

『しかたないトナカイのことは諦めて逃げるか』

「無理ですよ」

『なぜだ？』

「お主はもうわしがヒモで縛ってしまったからのう」

『た、たすけてください』

「い・や・じゃ」

「さて、ゆっくりと楽しむとするかのう」

『くギャーーーーー』>『』

聖なる夜に、響いた1人と1匹の悲鳴、来年は無事にプレゼントを届けることができるのだろうか？

（後書き）

感想をください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7004p/>

血まみれのサンタクロース 完全版

2010年12月31日05時50分発行